

精神科領域専門医研修プログラム

■ 専門研修プログラム名：京都府立医科大学連携施設 精神科専門医研修プログラム

■ プログラム担当者氏名：富永敏行

住 所：〒602-8566 京都府京都市上京区河原町通広小路の梶井町 465

電話番号：075-251-5612

F A X：075-251-5839

E-mail：totomi@koto.kpu-m.ac.jp

■ 専攻医の募集人数：(10) 人

■ 専攻医の募集時期：2021年7月1日～ 2021年9月30日(予定)

■ 応募方法：

履歴書を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。

宛先 〒602-8566 京都府京都市上京区河原町通広小路の梶井町 465

担当者 富永敏行

TEL：075-251-5612

FAX：075-251-5839

◆提出期限◆

2021年8月31日 必着

期限などは、あくまで予定ですので、変更となる可能性があります。詳しくは、上記問い合わせ先までお問い合わせください。

■ 採用判定方法：

履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念(全プログラム共通項目)

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって

国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

京都府立医科大学精神医学教室は120年を越える歴史を持ち、これまでに多くの精神科医を育成し、幅広い分野で活躍している。本プログラムの特徴は、そのような幅広い専門を持つ豊富な指導医のもとで、精神科医としての基礎的な診療技能から将来のサブスペシャリティを見据えた専門性の高い研修を提供することができる点である。

【基幹施設】

本研修プログラムは基幹施設である京都府立医科大学附属病院と18の連携施設からなる。1年目は基幹施設で、2～3年目は連携施設をローテートする。本プログラムの特徴は、そのような幅広い専門を持つ豊富な指導医のもとで、精神科医としての基礎的な診療技能から将来のサブスペシャリティを見据えた専門性の高い研修まで受けることができる点である。基幹病院となる京都府立医科大学は、大学附属病院として幅広い疾患に対応しており、2018年9月入院病床は大学附属病院本館内に移転し、23床の閉鎖病床を有する。ほとんどの精神疾患について診療のための知識と技能を獲得することが可能であり、加えて電気けいれん療法を要する重症ないし難治性の気分障害・統合失調症の診療、手術や複雑な治療を要する身体合併症をもつ患者の診療、脳炎・脳症の鑑別や脳炎・脳症に合併する精神症状の診療、重度るい瘦を伴う神経性やせ症の入院治療、強迫症の入院下での集中的な行動療法などを経験できる。

【連携施設】

連携施設には、国立病院機構舞鶴医療センター、宇治おうばく病院、五条山病院、第二北山病院、有馬病院、海辺の杜ホスピタルなどそれぞれが地域で中核的役割を果たしている有床の病院が入っており、精神科救急や地域資源との連携を含めた退院支援など多くの入院症例を経験することが可能である。また、発達障害に特化した外来診療を行っている花ノ木医療福祉センターでも研修は可能である。地域精神医療を積極的に展開している高知県の海辺の杜ホスピタルも参加している。さらに、京都第一赤十字病院、京都第二赤十字病院といった総合病院での研修も可能で、神経症、気分障害圏を中心とした外来診療に加えて、コンサルテーション・リエゾンや緩和ケアについて経験を積むことができる。

【教育システム】

実診療における研修に加えて、オンラインで実施するプログラムも充実させてい

る。広くスペシャリストを招聘しての専攻医セミナーや勉強会を通年で実施しており、これは連携施設で研修中の2, 3年目にもオンラインで参加することが可能である。また2, 3年目には基幹病院での症例報告の機会があり、研修中に出会った困った症例について相談することができる。各年度終了時には精神科面接の達成度確認を実施し、進捗の程度を把握する機会としている。

オンライン教育プログラムの詳細については、専攻医募集ページで参照できる。高知県の海辺の杜ホスピタルなど基幹施設のある京都府から離れた施設もあるが、これまでも連携して若手医師の教育に取り組んできた実績があり、さらに昨今はオンラインでの通信が発展したこともあって連携体制は十分構築されている。研修全体を通じて、基幹施設の指導医が継続して学会発表や論文作成の指導にあたり、研究の基礎を学ぶことができる。また、希望すれば研修過程途中で大学院へ入学して研修を続行することも可能である。

精神科医療は個別性が高く標準化が難しいところがあるが、その中でも身につけるべき基本的な態度や臨床技能があり、他の科と同様に可能な部分については標準化を図ることと、多職種がそれぞれの専門性を生かしながら協力してチーム医療を実践することが安全で質の高い医療の提供のために不可欠である。本プログラムでは、多様な指導医の下で様々な臨床現場での経験することを通して、今後精神科医として医療に携わっていく上で基礎となる技能を習得することができる。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数： 86 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	3153	1470
F1	497	278
F2	3790	3629
F3	4459	1688
F4 F50	4721	393
F4 F7 F8 F9 F50	1786	134
F6	193	53
その他	1204	165

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：京都府立医科大学附属病院
- ・施設形態：公的病院
- ・院長名：吉村了勇
- ・プログラム統括責任者氏名：富永敏行
- ・指導責任者氏名：成木 迅
- ・指導医人数：(7) 人
- ・精神科病床数：(23) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	135	14
F1	8	4
F2	168	28
F3	280	36
F4 F50	392	38
F4 F7 F8 F9 F50	138	5
F6	14	3
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は大学附属病院として幅広い疾患に対応しており、2018年9月、精神科病床は、大学病院本館内に移設し、身体的合併症病床、個室を増やし、23床を有し、最新の設備を備える。主として統合失調症、気分障害に加えて、摂食障害、強迫性障害、認知症、児童精神医学領域の入院治療を行っている。病棟移設後は、特に身体的合併症治療を要する症例が増えている。加えて電気けいれん療法を要する重症ないし難治性の気分障害・統合失調症の診療、手術や複雑な治療を要する身体合併症をもつ患者の診療、脳炎・脳症の鑑別や脳炎・脳症に合併する精神症状の診療、重度るい瘦を伴う神経性やせ症の入院治療、強迫症の入院下での集中的な行動療法などを経験できる。

また、コンサルテーション・リエゾンや緩和ケアでは、他科の病棟に行って診療にあたっている。患者の病状に沿った治療や多職種とのカンファレンスを通して、多くの精神疾患について診療のための知識と技能を獲得することが可能である。

外来は、思春期青年期、老年期、強迫性障害、認知行動療法といった専門外来を設置しており、随時陪席なども可能である。

年間を通して当基幹病院が主催する専攻医セミナーへの参加、毎週の症例検討会への参加を通して、様々な専門性を持った医師、コメディカルのディスカッションに参加できる。さらに各専門分野の研究会やセミナーも活発に行っており、希望者は参加が可能である。

B 研修連携施設

① 施設名：医療法人内海慈仁会 有馬病院

- ・施設形態：私立単科精神科病院
- ・院長名：川嶋祥樹
- ・指導責任者氏名：川嶋祥樹
- ・指導医人数：（ 5 ）人
- ・精神科病床数：（ 370 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	7	45
F1	3	9
F2	33	308
F3	83	186
F4 F50	37	55
F4 F7 F8 F9 F50	0	0
F6	1	1
その他	9	3

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は370床、7つの病棟を持つ私立単科精神科病院で、2単位、計74床の性格の異なる急性期治療病棟を持つことが特徴である。ひとつは、重症気分障害、統合失調症、認知症等精神疾患一般の急性期入院病棟、もう一つは、うつ治療専門病棟として認知行動療法主体のうつ病リワークプログラムや光トポグラフィ検査を実施している、30床全個室のうつ病リワーク病棟である。診断名のうつ病のみに限定せず、双極性障害、ストレス関連障害、広汎性発達障害等のうつ状態の治療にも対応している。精神科疾患の中核となりつつある気分障害について、様々な医療機関からの入院依頼もあり、認知行動療法の専門家もいることで、単なる薬物療法だけの治療ではなく専門的かつ総合的な治療実践を学べるのが、当院の最大の特徴である。

② 施設名：医療法人栄仁会 宇治おうばく病院

- ・施設形態：私立単科精神科病院
- ・院長名：岡 正悟
- ・指導責任者氏名：岡 正悟
- ・指導医人数：(16) 人
- ・精神科病床数：(400) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	561	425
F1	40	38
F2	279	383
F3	403	374
F4 F50	232	55
F4 F7 F8 F9 F50	66	23
F6	23	14
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

京都府山城圏域の精神科救急および認知症診療を担う中核病院である。精神科救急病棟は全ての精神疾患を対象としている。数名の常勤内科医師が合併症管理を支援している。圏域においては一般救急病院との精神科救急連携事業にも参画している。

一方、精神科慢性期医療と福祉連携、地域移行促進にも注力し、外来関連設備としてアウトリーチ支援、通過型および居場所型のデイケア、就労支援事業所も併設している。入院・外来を通じて集団療法を重視しており、どの病期にも対応する心理教育やグループワーク、家族教室をプログラム化している。

また、複数の医師により医療観察法の鑑定入院および数名の指定通院患者を受け入れている。うつ関連疾患の専門外来とリワークデイケアを開設しており、こちらの見学も可能である。

③ 施設名：医療法人精華園 海辺の杜ホスピタル

- ・施設形態：私立単科精神科病院
- ・院長名：岡田和史
- ・指導責任者氏名：町原 敦
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 380 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	94	119
F1	24	37
F2	36	129
F3	38	44
F4 F50	147	29
F4 F7 F8 F9 F50	59	22
F6	4	2
その他	11	12

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

県内有数のベッド数の単科精神科病院であり、サテライトの棧橋みどりクリニックと精神科訪問看護ステーションを同じ法人内に持っている。地域移行や精神科リハビリテーションに積極的な活動を行っており、家族心理教育やアルコール依存症治療、種々のグループ活動にも力を入れている。外来では児童思春期症例にも対応している。医療観察法の指定通院医療機関であり、また、鑑定入院例もあることから司法精神医学の分野も学ぶことができる。

④ 施設名：市立大津市民病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：片岡慶正
- ・指導責任者氏名：津田 真
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	70	0
F1	11	0
F2	21	0
F3	99	0
F4 F50	295	0
F4 F7 F8 F9 F50	25	0
F6	2	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、506床を有する総合病院で、臨床研修指定病院である。精神科の診療は外来のみで、神経症性障害、ストレス関連障害が中心である。加えて、せん妄を中心としたリエゾン症例も多く経験することができる。また、平成11年から緩和ケア病棟を設置してがん患者の緩和ケアに取り組んでおり、精神科医が積極的に関与している。このため、がん患者の心理的なケアについても学ぶことができる。

⑤ 施設名：一般財団法人 川越病院

- ・施設形態：私立単科精神科病院
- ・院長名：清水達夫
- ・指導責任者氏名：西村伊三男
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 162 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	6	15
F1	1	2
F2	29	186
F3	26	46
F4 F50	21	4
F4 F7 F8 F9 F50	0	0
F6	0	3
その他	0	1

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

わが国最初の公立精神科病院である京都癲狂院の流れを汲む当院は、1882年の創建以来この地域における精神医療を担ってきた。

当院では、研修期間内に精神科医療全般について密度の高い研修を行うことが可能である。精神一般 111 床と精神療養 51 床の 162 床を有し、措置入院・応急入院指定を受け、精神科救急輪番に参画する一方で、精神科作業療法、精神科デイケア、訪問看護を備え、近隣の就労支援施設等とも連携しつつ早期の社会復帰に繋がるよう支援を行っている。このように当院は、同規模の精神科病院としては外来、救急対応、入院から退院、地域移行・地域定着までの包括的な精神科医療システムを効率的に確立しており、研修期間内で精神科病院における医療全般を経験するのに適する。入院では、統合失調症、気分障害、認知症、思春期・青年期、物質依存等を含む多様な精神疾患を経験できる。外来では診察場面を指導

医のもとで学習するとともに、研修期間内に精神科医として単独で外来診療を担当できることを目標としている。

⑥ 施設名：医療法人三幸会 北山病院

- ・施設形態：私立単科精神科病院
- ・院長名：澤田 親男
- ・指導責任者氏名： 澤田 親男
- ・指導医人数：(9) 人
- ・精神科病床数：(448) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	59	284
F1	1	19
F2	12	314
F3	25	54
F4 F50	29	5
F4 F7 F8 F9 F50	1	0
F6	1	3
その他	3	16

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

京都府下の私立病院では唯一の日本心身医学会研修診療施設、日本老年精神医学会認定ところと認知症を診断できる病院に認定され、両学会の研修指導医を有している。また日本認知症学会教育施設認定も取得している。

京都第二赤十字病院・京都鞍馬口医療センター・洛和会丸太町病院の協力型臨床研修病院でもあり、常に研修医の受け入れを行っており、教育体制が整っている。

病棟は、2つの精神科療養病棟、2つの急性期病棟（閉鎖）、合併症病棟（開放）、男女混合の慢性期病棟（閉鎖と開放）、老人性認知症疾患療養病棟（いずみ）で構成されている。

当院の特徴の一つにあげられる「いずみ」は、平成10年12月1日に京都府下で老人性認知症疾患療養病棟の第一号として開設され今日に至っている。

外来は一般精神科外来に加え、物忘れ外来、心身症外来を行っている。周辺症状を有し在宅での介護に困っておられる高齢者認知症の入院依頼が増加している一方で、病院周辺の大学に在学するような若い方々がインターネットを見て心療内科への受診を希望し来院されることもあり、若者から高齢者まで幅広く対応している。また、入院から退院・社会復帰に向けた治療は、法人内の各施設との連携もあり、年々充実してきている。

⑦ 施設名：京都第一赤十字病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：池田栄人
- ・指導責任者氏名：名越泰秀
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(0) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	262	0
F1	29	0
F2	105	0
F3	139	0
F4 F50	355	0
F4 F7 F8 F9 F50	11	0
F6	11	0
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は662床の総合病院であり、地域医療支援病院、救急医療機能認定やがん拠点病院の指定等を受けており、地域の中核病院として種々の医療を行っている。このため、症例数は多く、病態も児童思春期から老年期まで多岐にわたっている。

また、救命救急センターを有しているため救急医療における精神科的対応の機会があり、せん妄をはじめとするリエゾン・コンサルテーションの症例も多いことが特徴である。また、神経症圏の症例も多く、中でも一般的には難治とされている身体表現性障害（身体症状症および関連症群）の治療成績は高く国内トップレベルである。これらの臨床経験を生かし、国内外への論文発表等の学術的活動も積極的に行っており、学会発表や論文作成の指導も可能である。

⑧ 施設名：京都第二赤十字病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：小林 裕
- ・指導責任者氏名：前林佳朗
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	211	0
F1	23	0
F2	44	0
F3	60	0
F4 F50	169	0
F4 F7 F8 F9 F50	16	0
F6	12	0
その他	325	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、676床を有する総合病院で、臨床研修指定病院である。外来は、神経症圏や気分障害の患者が多いが、近年は認知症や児童思春期症例が増加しつつあり、幅広い疾患の外来診療を経験することが可能である。入院は、当科独自の病棟は持たないが、1日診察患者の約15%が、他科入院中のリエゾン患者である。せん妄、認知症、がん患者に加えて、救命救急センターを受診した自殺企図例な

ど、様々な症例を経験できる。

⑨ 施設名：京都府立医科大学附属北部医療センター

- ・施設形態：公的病院
- ・院長名：中川正法
- ・指導責任者氏名：上村 宏
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	299	0
F1	43	0
F2	185	0
F3	193	0
F4 F50	591	0
F4 F7 F8 F9 F50	24	0
F6	9	0
その他	460	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、京都府立医科大学附属病院として、京都府北部の医療を担うと共に、教育にも力を入れている。外来患者は、神経症圏（F4）の患者が最も多く、入院機能をもたない診療所タイプの構成となっているが、近隣に支援学校、知的障害者施設があるため知的障害、広汎性発達障害などの患者の診療も経験することができる。

当院は総合医局となっており、大学附属病院でありながら他科との垣根が低く、すぐに相談しあえることも大きな特徴である。天橋立を見渡す美しい自然に囲まれた環境で、研修を受けることが可能である。

⑩ 施設名：医療法人財団北林厚生会 五条山病院

- ・施設形態：私立単科精神科病院
- ・院長名：北林百合之介
- ・指導責任者氏名：中前知里
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 374 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	18	14
F1	8	6
F2	292	229
F3	156	123
F4 F50	38	27
F4 F7 F8 F9 F50	26	19
F6	15	12
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、急性期治療病棟を中心に、急性期治療に力を入れており、疾患の特徴としては、統合失調症・気分障害患者の治療を中心に行っている。また、デイケアセンター、訪問看護ステーション、サポートセンター、指定特定相談支援事業所、グループホームを有しており、多数のコメディカルスタッフと共に手厚い在宅支援体制をとって、退院支援に積極的に取り組んでおり、多職種連携と地域医療を経験することが可能である。

これまで20年以上にわたって卒後5年目までの医師を受け入れて教育を行っており、十分な教育体制が整っている。

⑪ 施設名：医療法人桜花会 醍醐病院

- ・施設形態：私立単科精神科病院
- ・院長名：的場 祥人

- ・指導責任者氏名：的場 祥人
- ・指導医人数：（ 6 ）人
- ・精神科病床数：（ 301 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	25	22
F1	54	18
F2	616	282
F3	823	139
F4 F50	453	24
F4 F7 F8 F9 F50	54	3
F6	31	2
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

京都市内の私立単科精神科病院であるが、統合失調症、双極性障害だけでなく、ストレス性疾患やパーソナリティ障害、児童思春期症例の外来及び入院診療にも意欲的に取り組んでいる。社会復帰活動にも積極的で、デイケアや作業療法においては多彩なプログラムを取り揃えており、利用者数の多さも京都随一である。

⑫ 施設名：医療法人三幸会 第二北山病院

- ・施設形態：私立単科精神科病院

精神病棟入院基本料 3（15：1）・精神科急性期治療病棟 1・精神療養病棟入院料

- ・院長名：土田英人
- ・指導責任者氏名：土田英人
- ・指導医人数：（ 6 ）人
- ・精神科病床数：（324）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	10	57
F1	15	31
F2	45	399
F3	50	72
F4 F50	120	15
F4 F7 F8 F9 F50	30	6
F6	0	0
その他	20	14

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、324床を有する単科精神科病院であり、急性期治療病棟を中心として急性期治療に取り組んでおり、統合失調症患者が入院の7割を占めている。作業療法を含めた多職種連携によるチーム医療を行っている。デイケアと訪問看護を併設し、円滑な地域移行に努めており、地域精神医療も経験することができる。

⑬ 施設名：一般財団法人長岡記念財団 長岡病院

・施設形態：私立単科精神科病院

・院長名：畑 典男

・指導責任者氏名：畑 典男

・指導医人数：（ 5 ）人

・精神科病床数：（441 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	107	195
F1	18	13
F2	707	571

F3	607	337
F4 F50	271	30
F4 F7 F8 F9 F50	91	18
F6	20	4
その他	20	14

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

専門医療としては児童・思春期精神科、認知症があり、また医療監察法指定通院医療機関として触法精神障害の社会復帰を促進、さらに鑑定入院の受入れも行っている。ストレスケア病棟では認知行動療法、S S T、カウンセリングなど様々な心理社会的プログラムを取り入れ、最適な治療環境を提供している。近年は訪問看護・アウトリーチ支援に力を入れ、患者の地域生活支援体制を充実させているため、入院治療のみならず、地域医療の経験も可能である。

⑭ 施設名：社会医療法人 東香里病院

- ・施設形態：私立総合病院
- ・院長名：藤井 正満
- ・指導責任者氏名：藤本 宏
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 173 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	573	61
F1	23	10
F2	152	134
F3	172	64
F4 F50	72	20
F4 F7 F8 F9 F50	0	0

F6	9	0
その他	45	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は総合病院であり、内科医は腎臓専門医が多く在籍しており、透析、腎不全保存期、糖尿病、誤嚥性肺炎等、精神疾患内科合併症患者を多く受け入れている。整形外科医に常勤医がおり、精神疾患骨折合併症患者も多く受け入れている。認知症疾患医療センターを担当しており、物忘れ外来を開設して、認知症の鑑別疾患等をしている。H27年6月からMRIが導入されている。また、核医学検査は他病院と連携して、自院から直接撮影予約可能である。99mTc-ECD SPECT や 123 イオフルパン SPECT (DAT スキャン)の評価も行っている。H27年8月から、大阪府の夜間休日精神科合併症支援システムによる平日夜間土曜救急も行っており救急事例の経験も可能である。

⑮ 施設名：独立行政法人国立病院機構 舞鶴医療センター

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：法里 高
- ・指導責任者氏名：山野 純弘
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 120 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	61	48
F1	21	47
F2	21	177
F3	58	100
F4 F50	106	59
F4 F7 F8 F9 F50	37	41
F6	2	4

その他	132	86
-----	-----	----

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、一般病棟 329 床、20 診療科を有する総合病院であり、リエゾン・コンサルテーションでは幅広い疾患、症例を経験することが可能である。また緩和ケアも取り組んでおり、緩和ケアチームに精神科医として参加し治療経験を積むことができる。

また 50 床の救急病棟、70 床の一般精神科病棟の合計 120 床の精神科病棟を有している。京都府北部の精神科救急の基幹病院でもあり、精神科救急に関しては幅広く経験を積むことができる。また認知症疾患医療センターにも精神科が主に関わっており、認知症の診断、治療について経験を積むことができる。精神科デイケア、作業療法も導入しており、急性期だけでなく社会復帰、リハビリテーションにも取り組んでいる。

さらに、有床総合病院であることから、身体合併症治療に加え、思春期症例と含む多様な精神疾患の入院治療の実践経験を積むことができる。クロザピン治療や修正型電気けいれん療法も実施している。医療観察法の指定通院医療機関にも指定されている。

⑯ 施設名：特定医療法人福知会 もみじヶ丘病院

- ・施設形態：私立単科精神科病院
- ・院長名：南部 知幸
- ・指導責任者氏名：岡 一太郎
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 380 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	164	62
F1	29	9
F2	461	319
F3	657	62
F4 F50	601	18

F4 F7 F8 F9 F50	808	0
F6	8	3
その他	114	19

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

統合失調症、気分障害などの精神病圏の疾患が中心であるが、認知症治療病棟も併設しており、様々な形の認知症の治療に携わる事ができる。また、措置症例、器質・症状精神障害圏、中毒性精神障害、思春期症例など幅広い入院治療を経験することが可能である。

⑰ 施設名：医療法人 嶺南こころの病院

・施設形態：私立単科精神科病院

・院長名：金山秀彦

・指導責任者氏名：金山秀彦

・指導医人数：（ 4 ）人

・精神科病床数：（ 170 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	39	64
F1	61	15
F2	339	122
F3	304	39
F4 F50	344	14
F4 F7 F8 F9 F50	5	0
F6	18	2
その他	30	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

福井県嶺南地区における地域精神医療を担う医療機関として、精神疾患全般を

広く扱っている。措置入院を含め、多様な入院形態の患者の診療を行っている。外来においては集団精神療法による心理療法を積極的に行っている。また簡易鑑定の依頼など、司法精神医学関連のケースについても要請に応じて対応しており、指導を受けることが可能である。

⑱ 施設名：社会福祉法人 花ノ木医療福祉センター

- ・施設形態：民間施設（重症心身障害児施設に併設の外来診療）
- ・院長名：寺田 直人
- ・指導責任者氏名：前林 尚絵
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	0
F1	0	0
F2	0	0
F3	0	0
F4 F50	0	0
F4 F7 F8 F9 F50	174	0
F6	0	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当センターは、乳児期から成人期までの発達障害に特化した外来診療を行っている。心理検査と半構造化面接による診断、リハビリ評価と訓練、就学前の幼児を対象とした療育（併設の児童発達支援事業）、および外部機関（教育・福祉・就労）との連携により、地域に密着した、乳児期から成人期までの継続的支援を学べることを特徴とする。

病院内のコメディカルとのディスカッションも盛んで、心理、リハビリ（PT、OT、ST）、相談支援、児童発達支援の各部門と緊密に連携し、症例検討を行って

いる。学会やセミナー参加も奨励しており、希望者は参加可能である。当院は京都市の隣の亀岡市にあり、JR 嵯峨野山陰線や京都縦貫道利用により京都市や近郊の都市圏から通勤可能である。

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は講義、個別のスーパーバイズ、学会参加等を通して精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識、及び技能を習得する。各年次の到達目標は下記の通り。

到達目標

1年目：原則、基幹病院で指導医と共に統合失調症、気分障害、認知症を含む器質性精神障害、強迫性障害、摂食障害等の患者を受け持ち、面接技法、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法及び修正型電気けいれん療法の基本を学ぶ。また、リエゾンを担当し、指導医の指導の下、せん妄、がん患者の緩和ケアなどについて、薬物療法及び精神療法と他科との連携について学ぶ。精神療法の習得を目指して摂食障害外来、強迫症外来、認知行動療法外来の専門外来の見学、カンファレンス及びセミナーに参加する。また、カンファレンスを通して各種検査の評価について学び、診断と治療計画、精神療法、薬物療法の基本的な考え方と技法を学ぶ。定期的な専門医セミナーで基本的な知識を学習する。経験した症例について院内の症例検討会、及び学会で発表・討論する。外部の研修会への参加も推奨される。

2年目：基幹病院、関連施設または連携病院で、指導医の指導を受けつつ、自立して診療にあたり、さらに診断と治療計画の能力を高める。当直や日中の救急番を担当し、精神科救急における対応の仕方を学ぶ。指導医の指導を受けながら引き続き薬物療法・精神療法について学ぶ。症例についての治療計画や、認知行動療法や力動的な精神療法の技法について基幹病院から助言指導する機会も提供される。院内外のカンファレンスや学会で発表する。

3年目：指導医から自立して診療できるようにする。連携病院は1,2年目の経験症例や専攻医のサブスペシャリティへの志向も考慮して選択する。引き続き基幹病院から助言指導する機会も提供される。精神科リハビリテーション、産業メンタルヘルス、児童・思春期、認知症、認知行動療法、地域精神医療等について学ぶ。学術的視点を持ち、学会発表や論文作成することが推奨される。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」、「研修記録簿」を参照。

3) 個別項目について

① 倫理性・社会性

基幹施設においてコンサルテーション・リエゾンを通して、身体診療科との連携を持つことで、医師としての責任や社会性、倫理観などについて多くの先輩医師や他の医療スタッフからも習得の機会を得る。多職種カンファレンスや退院支援に関連して外部機関と連携することで他職種とのチームワーク医療を身につける。

② 学問的姿勢

基幹施設においてまず症例を経験することを通して医学的な情報収集の方法を身につけ、論文の批判的吟味を学ぶ。その中で、情報発信の意義がある症例については学会発表や論文発表を通して、情報発信の手法を身につける。また、リサーチクエスションの立て方と研究計画立案について学び、臨床の中から研究につなげていく姿勢を醸成する。

③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 患者治療者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの獲得を目指す。加えて、精神療法、精神科薬物療法、リエゾン医療といった精神科医特有のコアコンピテンシーの獲得を目指す。

④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設や関連施設において行う臨床研究、基礎研究に従事して学術的姿勢を学ぶことができる。また学術的意義がある経験症例について学会や論文として発表する。連携施設での研修中も希望があれば継続して基幹施設において研究を継続することができる。

⑤ 自己学習

関連する図書、及び学術雑誌を揃え、基幹施設においてはオンラインジャーナルへのアクセス環境も整っており、自己学習を効果的に行うことができる。週1回は指導医と面接の機会を持ち、自己学習の状況について確認を行う。

4) ローテーションモデル

典型的には1年目に基幹病院である京都府立医科大学附属病院をローテートし、精神科医としての基本的な知識と技能を身につける。2～3年目には総合病院精神科と単科精神科病院を各6ヵ月～1年間ローテート（基本は各施設で1年間ごとの研修）し、精神科救急、地域医療、精神科リハビリテーションについて幅広く経験し、また、精神保健福祉法や社会資源の活用と多職種連携について知識と技能を身につける。

これら3年間のローテート順については、先述した通り、原則、1年目は京都府立医科大学、2～3年目は連携施設であるが、本人の都合や希望に応じて柔軟な対応が可能である。

さらに、今回記載した連携施設以外に、希望すれば、京都府こども発達支援センターで児童精神医学の研修、花ノ木医療福祉センターで発達障害関連の専門的な研修を受けることができ、リワークなど産業メンタルヘルスを中心に行っている杉本医院からすまメンタルクリニックで産業メンタルヘルスについて学ぶことも可能である。主なローテーションパターンについて、下に示す。

「連携（地域研修）プログラム」での研修については、滋賀県の市立大津市民病院精神・心療内科で1年6か月の研修を行い、京都府立医科大学附属病院精神科・心療内科で1年、精神科病院で6か月の研修を行う。総合病院精神科、大学病院精神科および単科精神科病院をローテートすることで、幅広い研修内容を習得できる。京都府立医科大学附属病院精神科・心療内科、精神科病院での研修の期間などについて希望があれば、柔軟に対応する。

キャリアのパターン	医師3年目	4年目	5年目
A	大学附属病院(新専門医制度基幹病院)前期専攻医	新専門医制度連携病院内の単科精神科病院、総合病院精神科を選択	関係病院(単科精神科病院)
B			関係病院(総合病院精神科)
C			大学附属病院(後期専攻医)
D			大学院
E			大学院

➡ 各パターンであっても状況に応じて対応します。

注: キャリアのパターンは、あくまで一例です。

5) 研修の週間・年間計画

別紙参照。

いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

4. プログラム管理体制について

プログラム管理委員会

- 委員長 医師：成本 迅
- 医師：富永敏行
- 医師：中前 貴
- 医師：松岡照之
- 医師：阿部能成
- 医師：飯田直子
- 医師：渡辺杏里
- 医師：川嶋祥樹
- 医師：岡 正悟
- 医師：町原 敦
- 医師：津田 真
- 医師：西村伊三男
- 医師：澤田親男
- 医師：名越泰秀
- 医師：前林佳朗
- 医師：上村 宏
- 医師：中前知里
- 医師：的場祥人
- 医師：土田英人
- 医師：畑 典男
- 医師：栗栖 猛
- 医師：山野純弘
- 医師：岡一太郎
- 医師：金山秀彦
- 医師：前林尚絵

- 精神保健福祉士：池上明希
- 臨床心理士：加藤佑佳

- プログラム統括責任者
富永敏行（副）飯田直子

- 連携施設における委員会組織
各連携病院の指導責任者及び実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

京都府立医科大学附属病院：成本 迅
有馬病院：川嶋祥樹
宇治おうばく病院：岡 正悟
海辺の杜ホスピタル：町原 敦
市立大津市民病院：津田 真
川越病院：西村伊三男
北山病院：澤田親男
京都第一赤十字病院：名越泰秀
京都第二赤十字病院：前林佳朗
京都府立医科大学附属北部医療センター：上村 宏
五条山病院：中前知里
醍醐病院：的場祥人
第二北山病院：土田英人
長岡病院：畑 典男
東香里病院：栗栖 猛
舞鶴医療センター：山野純弘
もみじヶ丘病院：岡一太郎
嶺南こころの病院：金山秀彦
花ノ木医療福祉センター：前林尚絵

2) 評価時期と評価方法

- ・ 3ヵ月毎に、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修について見直し、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・ 研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヵ月毎に評価しフィードバックする。
- ・ 1年修了時に1年間の研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。また、その結果を統括責任者に提出する。
- ・ 研修実績及び評価には研修記録簿／システムを用いる

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」(別紙)に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、年1回行う。

京都府立医科大学附属病院にて専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管する。さらに、専攻医による専門

研修施設及び専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル（別紙）
- 指導医マニュアル（別紙）
- 専攻医研修実績記録

「研修医記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価を行い記録する。年1回各研修項目の達成目標に従って、形成的自己評価を行う。

- ・ 指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価を行い、同時に指導医も形成的評価を行い記録する。指導医は「劣る」「やや劣る」の評価をつけた項目については、必ず改善のためのフィードバックを行い記録し、翌年度の研修に役立てる。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

各研修施設の労務管理基準に準拠するが、就業環境の整備が必要な時は、各施設の労務管理者が適切に行う。

2) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。施設で行われる定期健康診断の他に、心身の不調がある時は、研修指導医を通して、担当部署で対応する。

3) プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について協議し、全体として改善の必要がないのかなどの検討を行う。検討にあたっては、他職種の意見も取り入れる。

4) FDの計画・実施

年1回、プログラム管理委員会が主導し、各施設における研修状況を評価するとともに、年1回指導医を対象とした研修会を開催する。

【別紙】

週間スケジュール

① 京都府立医科大学附属病院

	月	火	水	木	金
9:00-12:00	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務	部長回診	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務
13:00-17:00	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務	症例検討会	リエゾン回 診	病棟業務・ 外来業務
17:00-19:00			勉強会		

② 医療法人内海慈仁会有馬病院

	月	火	水	木	金
9:00-12:00	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務
13:00-17:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務・ 症例検討会

③ 宇治おうばく病院

	月	火	水	木	金
9:00-11:00	救急病棟 回診	療養病棟 回診	救急病棟 回診	療養病棟 回診	救急病棟 回診
11:00 - 12:00	所見付けト レーニング	症例検討	外来再診	症例検討 又は臨床講 義	ストレスケ ア病棟カン ファレンス
13:00-15:00	再診陪席	予診・初診	京都駅前リ ワークデイ ケア	予診・初診	認知症初診
15:00 - 17:30	病棟回診ま たは入院対 応	訪問・往診 同行または 入院対応	京都駅前ク リニック	訪問・往診 同行または 入院対応	病棟回診ま たは入院対 応

④ 医療法人精華園 海辺の杜ホスピタル

	月	火	水	木	金	土（隔週）
8：30-9：00	病棟申し送り参加					
9：00-12:15	病棟業務	外来業務	研修講義 受講	院外業務	病棟業務	外来業務 病棟業務
13:15-17：00	病棟業務	外来業務	グループワ ーク参加	外来業務	病棟業務	
16：30-18： 00（水曜日の み）			医局会 （症例検討 会）			

⑤ 市立大津市民病院

	月	火	水	木	金
8:45-12:30	緩和ケア病 棟業務	精神・心療内科 外来業務	緩和ケア病 棟業務	緩和ケア病 棟業務	精神・心療内科外来 業務
13:15-17:15	緩和ケア病 棟業務	精神・心療内科 外来業務	緩和ケア病 棟業務	緩和ケア病 棟業務	精神・心療内科外来 業務・症例検討会・ 勉強会

⑥ 一般財団法人 川越病院

	月	火	水	木	金
8:20-9:00	病棟カンファレンス				
9:00-9:30		医局会			
9:30-12:00	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・外 来業務
13:00-15:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
15:00-17:00			回診	回診	症例検討会
17:00-19:00		勉強会			

⑦ 三幸会 北山病院

	月	火	水	木	金
9:00-12:00	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・外 来業務	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務
13:00-17:00	病棟業務	症例検討会・ 病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務

⑧ 京都第一赤十字病院

	月	火	水	木	金
9:00-14:00	外来業務	外来業務	外来業務	リエゾン業務	外来業務
14:00-17:00	リエゾン業務	リエゾン業務	リエゾン業務	リエゾン業務	リエゾン業務
17:00-19:00	勉強会				症例検討会

⑨ 京都第二赤十字病院

	月	火	水	木	金
午前	症例検討・ 外来	外来	一般精神科 病院研修	症例検討・ 外来	症例検討・ 外来
午後	外来・他科入院リ エゾン・症例検 討・カンファレン ス（勉強会）	外来・他科 入院リエゾ ン・症例検 討	一般精神科 病院研修	外来・他科入院 リエゾン・症例 検討	外来・他科入 院リエゾン・ 症例検討

⑩ 京都府立医科大学附属北部医療センター

	月	火	水	木	金
8:15					
8:30	外来 (新患)	出張診療	予約診療	医局会	外来 (新患)
8:45				予約診療	
12:30					
13:30	予約診療 リエゾン	出張診療 リエゾン	予約診療 リエゾン	予約診療 リエゾン	予約診療 リエゾン
15:00	認知症 鑑別診断				認知症 鑑別診断
16:00	予約診療 リエゾン				緩和ケア 委員会
17:15	ケース 検討会		ケース 検討会	ケース 検討会	スタッフ会 議
19:00					
20:30				レクチャー	

1. 上記週間スケジュールに従って診療に従事する
2. 精神科専門医制度規則施行細則内 別表 1「受験資格に関わる研修ガイドライン」に沿って、日常的に研修が進められるようサポートする
3. 毎週木曜日に行われるレクチャーに加え、研修医のニーズを重視し必要なケース検討会を行う
4. 月 2 回木曜朝の医局会に参加し、病院全体の重要伝達事項を理解し協力する
5. 週 4 回の認知症鑑別診断のうち 2 回を担当する
6. リエゾンで依頼を受けた緩和ケアケースについては、第 2 金曜日の緩和ケア委員会で症例検討、学習会などを行う
7. 随時のサポート、アドバイスに加えて特に対応に苦慮するケース、症例報告につながるケースをケースレポートとしてまとめ、第 4 木曜に検討を行う
8. 精神科内での伝達事項、オンコール交代の確認・伝達、歓送迎会を兼ねた茶話会などを含めたコミュニケーションの場としてのスタッフ会議を、精神科医 2 名、精神保健福祉士、担当クラークのメンバーで行う

⑪ 五条山病院

	月	火	水	木	金
9:00-12:00	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務
13:00-17:00	病棟業務 外来業務	症例検討 会	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務
17:00-19:00					

⑫ 醍醐病院

	月	火	水	木	金
9:00-12:00	病棟業務	外来（新 患）業務	外来（再 診）業務	デイナイ トケア業 務	外来（再 診）業務
13:00-17:15	病棟業務	作業療法 業務	病棟業務	デイナイ トケア業 務	病棟業務
17:15-19:00	医局会 症例検討 会			デイナイ トケア業 務	

⑬ 第二北山病院

	月	火	水	木	金
9:00-12:00	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務	病棟業務 外来業務
13:00-17:00	症例検討 会	病棟業務 外来業務	デイケア 業務	地域連携 (保健 所)	病棟業務 外来業務

⑭ 一般財団法人長岡記念財団 長岡病院

曜日等	時間	事項
月曜日	8:30	入院診療
	13:00	入院診療
	16:30	医局カンファレンス
火曜日	8:30	入院診療
		外来診療
	13:00	入院診療
水曜日	8:30	入院診療
		外来診療
	13:00	入院診療
	14:00	病棟カンファレンス
木曜日	8:30	入院診療
		外来診療
	13:00	入院診療
金曜日	8:30	入院診療
		外来診療
	13:00	入院診療
	15:00	講義

⑮ 東香里病院

	月	火	水	木	金
9:00-12:00	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務
12:30-13:00	勉強会				
13:00-17:00	作業療法・ デイケア	作業療法・ デイケア	特別外来 (物忘れ)	特別外来 (物忘れ)	症例検討

⑩ 舞鶴医療センター

	月	火	水	木	金
8:30-12:00	病棟業務・ 外来業務・ 作業療法	病棟業務・ 外来業務	ECT・ 病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務・ デイケア	ECT・ 病棟業務・ 外来業務
13:00-17:15	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務	緩和ケアチ ーム・ラウ ンド	病棟業務・ 外来業務
17:15-19:00	ECTカン ファレンス	症例検討会			

⑪ もみじヶ丘病院

	月	火	水	木	金	土	日
8:30 ～ 9:15	病棟回 診	研究日	病棟回 診	病棟回 診	病棟回 診	病棟回 診	日当直 (月に1 回程度)
9:30 ～ 12:00	病棟		デイケ ア	外来 (予診)	病棟	病棟	
13:00 ～ 17:00	病棟		デイケ ア	クルズ ス 症例の 検討	外来 (予診)	病棟	
17:30 ～ 18:30	医局会 (第3 月曜は 事例検 討会)			当直 (週に1 回程度)			
18:30 ～ 19:30	医局会 (第3 月曜)						

⑱ 嶺南こころの病院

	月	火	水	木	金
9:00-12:00	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務
13:00-17:00	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務	病棟業務・ 外来業務	連絡会・カ ンファレン ス	病棟業務・ 外来業務

⑲ 花ノ木医療福祉センター

	月	火	水	木	金
9:00～9:30	モーニングカ ンファレンス	モーニングカ ンファレンス	モーニングカ ンファレンス	モーニングカ ンファレンス	モーニングカ ンファレンス
9:30～12:00	外来業務 心理検査見学 療育見学	外来業務 心理検査見学 療育見学	外来業務 心理検査見学 療育見学	外来業務 心理検査見学 療育見学	外来業務 心理検査見学 療育見学
13:00～17:00	外来業務 心理検査見学	外来業務 心理検査見学 発達外来連絡 会（症例検 討、月2回）	外来業務 心理検査見学 所内研修	外来業務 心理検査見学	外来業務 心理検査見学
17:00～	終了ミーティ ング	終了ミーティ ング	終了ミーティ ング	終了ミーティ ング	初診カンファ レンス

年間スケジュール

① 京都府立医科大学附属病院

	オリエンテーション SR1 研修開始
4月	SR2/3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出 研修医グランドラウンド（毎月開催）
5月	教室研究会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意） 日本心身医学会総会参加（任意）
7月	近畿精神神経学会参加 日本認知療法・認知行動療法学会（任意） 日本うつ病学会（任意）
8月	脳波セミナー
9月	日本生物学的精神医学会参加（任意） 日本児童青年精神医学会総会参加（任意）
10月	SR1/2/3 研修中間報告書提出 日本臨床精神神経薬理学会参加（任意） 日本摂食障害学会参加（任意）
11月	日本総合病院精神医学会参加（任意）
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	
2月	近畿精神神経学会参加 日本不安症学会参加（任意） Course for the Academic Development of Psychiatrists (CADP)参加（任意）
3月	SR1/2/3 研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成 日本統合失調症学会参加（任意）

2021年度専攻医教育カレンダー（京都府立医科大学での研修1年目での予定）

注1) 日程は急遽変更されることもありますので、詳細は医局にて確認して下さい。

注2) 原則、オンラインで開催します。

4月

4月2日（金）18時～ 精神科で扱う書類の書き方

- 4月7日(水) 18時～ 単科精神科病院での身体治療
- 4月14日(水) 18時～ 精神科救急
- 4月21日(水) 18時～ リエゾン精神医学の実際
- 4月22日(木) 17時～ 集学的痛みセンター・カンファレンス
- 4月28日(水) 18時～ 修正型電気けいれん療法
- (予定) 脳神経内科放射線科精神科合同カンファレンス

5月

- 5月12日(水) 18時～ 気分障害1
- 5月19日(水) 18時～ 気分障害2
- 5月21日(金) 15時～ 集団精神療法
- 5月26日(水) 18時～ 統合失調症
- 5月27日(木) 17時～ 集学的痛みセンター・カンファレンス

6月

- 6月9日(水) 18時～ 認知行動療法
- 6月10日(木) 18時30分～ 精神療法総論・支持的精神療法
- 6月16日(水) 14時～ 専門医研修の基幹病院における症例報告
- 6月23日(水) 18時～ リエゾン勉強会
- 6月24日(木) 17時～ 集学的痛みセンター・カンファレンス

7月

- 7月16日(金) 18時～ 精神科地域連携
- 7月22日(木) 17時～ 集学的痛みセンター・カンファレンス
- 7月28日(水) 18時～ リエゾン勉強会(近畿精神で発表しない先生が担当)
- (予定) 脳神経内科放射線科精神科合同カンファレンス
- (予定) 近畿地区精神科合同卒後研修講座
- (予定) 第128回近畿精神神経学会

8月

- 8月4日(水) 18時～ 精神科薬物療法1
- 8月11日(水) 18時～ 精神科薬物療法2
- 8月25日(水) 18時～ 思春期の入院治療1
- 8月26日(木) 17時～ 集学的痛みセンター・カンファレンス
- 8月27日(金) 18時～ 思春期の入院治療2

9月

- 9月1日(水) 19時～ 力動的な精神療法
- 9月10日(金) 18時～ 精神病理学
- 9月19日(日)～21日(火) 日本精神神経学会@京都、ハイブリッド開催
- 9月23日(木) 17時～ 集学的痛みセンター・カンファレンス
- 9月29日(水) 14時～ 専門医研修の基幹病院における症例報告
- 9月29日(水) 18時～ リエゾン勉強会

(予定) 臨床神経カンファレンス

10月

10月5日(火) 18時～ 児童精神医学

10月14日(木) 18時～ メンタライゼーションに基づく治療

10月28日(木) 17時～ 集学的痛みセンター・カンファレンス

(予定) 脳神経内科放射線科精神科合同カンファレンス

11月

11月10日(水) 18時～ 不安症群、ストレス因関連症群

11月19日(金) 18時～ 身体症状症および関連症群

11月24日(水) 18時～ リエゾン勉強会

11月25日(木) 17時～ 集学的痛みセンター・カンファレンス

11月26日(金) 15時～ 強迫性障害の入院治療

12月

12月7日(火) 18時～ 動機付け面接法

12月10日(金) 15時～ 行動療法

12月15日(水) 14時～ 専門医研修の基幹病院における症例報告

12月22日(水) 17時30分～ 精神看護

12月23日(木) 17時～ 集学的痛みセンター・カンファレンス

1月

1月13日(木) 18時～対人関係療法

1月19日(水) 18時～ リエゾン勉強会

1月21日(金) 15時～ 心理検査法

1月27日(木) 17時～ 集学的痛みセンター・カンファレンス

1月28日(金) 18時～ 臨床研究の研究デザインと統計解析の基礎について

(予定) 脳神経内科放射線科精神科合同カンファレンス

2月

2月2日(水) 18時～ 精神保健福祉法

2月9日(水) 18時～ 物質関連障害

2月16日(水) 14時～ 専門医研修の基幹病院における症例報告

2月16日(水) 18時～ リエゾン勉強会

2月24日(木) 17時～ 集学的痛みセンター・カンファレンス

(予定) 第129回近畿精神神経学会

3月

3月24日(木) 17時～ 集学的痛みセンター・カンファレンス

(予定) 脳波1

(予定) 脳波2

(予定) 専門医研修の年度末口頭試問

(予定) 臨床神経カンファレンス

外部の研修会

<ロールプレイ・ワークショップのある研修会>

精神神経学会の研修会

精神科面接の基本

https://www.jspn.or.jp/modules/meeting/index.php?content_id=178

小児精神医療研修会

https://www.jspn.or.jp/modules/meeting/index.php?content_id=187

厚生労働省のうつ病の認知療法・認知行動療法ワークショップ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000209742_00007.html

日本メンタライゼーション研究会のメンタライゼーション・ワークショップ

<https://ameblo.jp/mentalization/>

<座学の研修会>

近畿地区精神科合同卒後研修講座

不安症学会の不安症に対する認知療法・認知行動療法に関する研修会

<http://jpsad.jp/workshop.php>

久里浜医療センターの研修会

アルコール依存症、インターネット依存症、ギャンブル依存症

<https://kurihama.hosp.go.jp/research/training/>

② 医療法人内海慈仁会有馬病院

4月	オリエンテーション うつ病リワーク研究会年次研究会参加
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	近畿精神神経学会参加
8月	日本うつ病学会総会参加
9月	
10月	研修中間報告書提出

11月	
12月	
1月	
2月	近畿精神神経学会参加
3月	研修プログラム評価報告書作成

③ 宇治おうばく病院

4月	新入職員・研修医オリエンテーション CVPPP 研修
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意） 日本司法医学会総会参加（任意）
7月	近畿精神神経学会参加 京都病院診療所連携研究会
8月	
9月	病院家族会「あすなろの会」定例会 日本児童青年精神医学会総会参加（任意）
10月	日本精神科救急学会参加
11月	宇治久世地区医師会学術講演会（任意） 京都府南部救急 G・P ネット研究会
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	
2月	近畿精神神経学会参加
3月	病院家族会「あすなろの会」定例会 研修プログラム評価報告書の作成 日本社会精神医学会参加（任意）

④ 医療法人精華園 海辺の杜ホスピタル

4月	オリエンテーション 研修医グラウンドラウンド
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意） 日本心身医学会総会参加（任意）

7月	精神療法院内事例検討会
8月	
9月	日本生物学的精神医学会参加（任意） 日本児童青年精神医学会総会参加（任意）
10月	日本臨床精神神経薬理学会参加（任意）
11月	日本総合病院精神医学会参加（任意） 中国四国精神神経学会参加（任意）
12月	精神療法院内事例検討会
1月	
2月	日本不安症学会参加（任意）
3月	研修プログラム評価報告書の作成 日本統合失調症学会参加（任意）

上記学会は、年、状況により変更あり。

毎月第三火曜 院内研修会参加

⑤ 市立大津市民病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加(任意) 日本心身医学会総会参加（任意） 日本緩和医療学会総会参加（任意）
7月	
8月	
9月	日本サイコオンコロジー学会総会参加(任意)
10月	日本臨床精神神経薬理学会参加（任意）
11月	日本総合病院精神医学会参加（任意）
12月	
1月	
2月	日本不安症学会参加（任意）
3月	研修プログラム評価報告書の作成

⑥ 一般財団法人 川越病院

4月	オリエンテーション 医療安全管理研修会
5月	行動制限最小化研修会

6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加(任意) 日本心身医学会総会参加(任意) 院内感染対策研修会
7月	近畿精神神経学会参加
8月	
9月	日本生物学的精神医学会参加(任意) 日本児童青年精神医学会総会参加(任意)
10月	日本臨床精神神経薬理学会参加(任意) 医療安全管理研修会
11月	日本総合病院精神医学会参加(任意) 行動制限最小化研修会 デイケア研修会(院内)
12月	院内感染対策研修会 訪問看護研修会
1月	身体拘束・静脈血栓予防研修会
2月	近畿精神神経学会参加 日本不安症学会参加(任意) Course for the Academic Development of Psychiatrists (CADP) 参加(任意)
3月	研修プログラム評価報告書の作成 日本統合失調症学会参加(任意) 作業療法研修会

⑦ 三幸会 北山病院

4月	オリエンテーション SR1研修開始 SR2/3前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出 研修医グラウンドラウンド(毎月開催)
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加(任意) 日本心身医学会総会参加(任意)
7月	近畿精神神経学会参加
8月	京都府立医科大学脳波セミナー参加(任意)

9月	日本生物学的精神医学会参加（任意） 日本児童青年精神医学会総会参加（任意）
10月	SR1/2/3研修中間報告書提出 日本臨床精神神経薬理学会参加（任意） 日本精神分析学会参加（任意）
11月	日本総合病院精神医学会参加（任意）
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	
2月	近畿精神神経学会参加 日本不安症学会参加（任意） Course for the Academic Development of Psychiatrists (CADP)参加 （任意）
3月	SR1/2/3研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成 日本統合失調症学会参加（任意） 日本精神分析的な精神医学会参加（任意）

⑧ 京都第一赤十字病院

4月	オリエンテーション SR1 研修開始 SR2/3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意） 日本心身医学会総会参加（任意）
7月	近畿精神神経学会参加
8月	脳波セミナー
9月	日本児童青年精神医学会総会参加（任意）
10月	SR1/2/3 研修中間報告書提出 日本臨床精神神経薬理学会参加（任意）
11月	日本精神分析学会参加（任意）
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	
2月	近畿精神神経学会参加

3月	SR1/2/3 研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成
----	----------------------------------

⑨ 京都第二赤十字病院

4月	オリエンテーション、SR(2または3) 研修開始、専攻医グランドラウンド（毎月開催）、指導医の指導実績報告書提出
5月	基幹施設研究会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加、日本老年精神医学会参加（任意）、日本心身医学会参加（任意）
7月	近畿精神神経学会参加
8月	脳波セミナー
9月	日本生物学的精神医学会参加（任意）、日本児童青年精神医学会参加（任意）
10月	SR(2または3) 研修中間報告書提出、日本臨床精神神経薬理学会参加（任意）
11月	日本総合病院精神医学会参加（任意）
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	
2月	近畿精神神経学会参加（演題発表）

3月	SR(2または3) 研修報告書提出、研修プログラム評価報告書の作成、日本統合失調症学会参加（任意）
----	---

⑩ 京都府立医科大学附属北部医療センター

4月	<p>オリエンテーション オンコール体制の概要説明と役割分担についての説明 丹後地域の障害者支援リソースについて解説 認知症鑑別診断業務の概要説明、画像診断のシステム説明 文書作成についての概要説明と、付加的可変点の説明 心理テスト、評価尺度などについての概要説明 研究費の執行に関する概要説明</p> <p>SR1/2/3 研修開始 指導医の指導実績報告書提出</p>
5月	<p>追加説明 高次脳機能障害の診断手順について 自閉傾向評価に関するツール説明 当院で実行可能な臨床研究 協力要請およびアイデア募集 研修手帳：症例報告の説明と手帳の必要事項記入 研修手帳：必要に応じケースレポート例示 総論年次評価 随時</p>
6月	<p>日本精神神経学会学術総会参加（交互） 日本老年精神医学会参加（任意） 日本心身医学会総会参加（任意）</p>
7月	近畿精神神経学会参加（任意）
8月	夏休み取得の徹底
9月	<p>日本生物学的精神医学会参加（任意） 日本児童青年精神医学会総会参加（任意） 研修手帳：症例報告の説明と進捗度確認、必要事項記入 研究費の執行状況確認とアドバイス</p>
10月	日本臨床精神神経薬理学会参加（任意）
11月	日本総合病院精神医学会参加（任意）
12月	<p>研修プログラム管理委員会開催 がん診療に携わる医師・看護師に対する緩和ケア研修会 講師担当（任意）</p>
1月	
2月	<p>与謝の海病院・与謝医師会症例検討会 症例報告（任意） 京都北部メンタルケア研究会 演題提示（任意） 近畿精神神経学会参加（任意） 日本不安症学会参加（任意） Course for the Academic Development of Psychiatrists (CADP)参加（任意）</p>

3月	研修プログラム評価報告書の作成 木七レクチャー 演題提示 (任意) 研修手帳研修歴記入、院長記入依頼 日本統合失調症学会参加 (任意)
----	--

⑪ 五条山病院

4月	オリエンテーション SR1 研修開始 SR2/3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出 研修医グランウンドラウンド(毎月開催)
5月	教室研究会参加 日本精神神経学会学術総会参加
6月	日本老年精神医学会参加(任意) 日本心身医学会総会参加(任意)
7月	近畿精神神経学会参加
8月	脳波セミナー
9月	日本生物学的精神医学会参加(任意) 日本児童青年精神医学会総会参加(任意)
10月	SR1/2/3 研修中間報告書提出 日本臨床精神神経薬理学会参加(任意)
11月	日本総合病院精神医学会参加(任意)
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	近畿精神神経学会参加 日本不安定症学会参加(任意)
2月	Course for the Academic Development of Psychiatrists(CAPD)参加(任意) SR1/2/3 研修報告書提出
3月	研修プログラム評価報告書の作成 日本統合失調症学会参加(任意)

⑫ 醍醐病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加 (任意) 日本心身医学会総会参加 (任意)

7月	近畿精神神経学会参加(任意) 京都府立医科大学叡修会参加
8月	
9月	日本生物学的精神医学会参加 (任意) 日本児童青年精神医学会総会参加 (任意)
10月	日本臨床精神神経薬理学会参加 (任意)
11月	
12月	京都府立医科大学叡修会参加
1月	
2月	Course for the Academic Development of Psychiatrists (CADP)参加 (任意) 近畿精神神経学会参加 (任意) 日本不安症学会参加 (任意)
3月	

⑬ 第二北山病院

4月	SR1 研修開始
5月	日本精神神経学会学術総会参加
6月	日本老年精神医学会参加 日本心身医学会総会参加
7月	近畿精神神経学会参加
8月	
9月	日本生物学的精神医学会参加 日本児童青年精神医学会総会参加
10月	SR1/2/3 研修中間報告書提出 日本臨床精神神経薬理学会参加
11月	日本総合病院精神医学会参加
12月	研修プログラム管理委員会参加
1月	近畿精神神経学会参加 日本不安症学会参加
2月	SR1/2/3 研修報告書
3月	研修プログラム評価報告書の作成 日本統合失調症学会参加

⑭ 一般財団法人長岡記念財団 長岡病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加
7月	
8月	
9月	
10月	日本児童青年精神医学会参加
11月	地方精神神経学会参加・演題発表
12月	
1月	
2月	財団研究発表会
3月	総括的評価

※適宜 各種研修会参加

⑮ 東香里病院

4月	オリエンテーション 指導医の指導実績報告書提出 研修医グランドラウンド（毎月開催）
5月	教室研究会参加

6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意） 日本心身医学会総会参加（任意）
7月	近畿精神神経学会参加
8月	脳波セミナー
9月	日本生物学的精神医学会参加（任意） 日本児童青年精神医学会総会参加（任意）
10月	日本臨床精神神経薬理学会参加（任意）
11月	日本総合病院精神医学会参加（任意）
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	
2月	近畿精神神経学会参加 日本不安症学会参加（任意）
3月	認知症疾患医療センター(当院) 主催セミナー参加 研修プログラム評価報告書の作成 日本統合失調症学会参加（任意）

⑩ 舞鶴医療センター

4月	オリエンテーション 研修開始 指導医の指導実績報告書提出
5月	研修医セミナー
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意） 日本心身医学会総会参加（任意）
7月	近畿精神神経学会参加
8月	
9月	日本生物学的精神医学会参加（任意） 日本児童青年精神医学会総会参加（任意）
10月	日本臨床精神神経薬理学会参加（任意）
11月	日本総合病院精神医学会参加（任意）
12月	
1月	

2月	近畿精神神経学会参加 日本不安症学会参加（任意） Course for the Academic Development of Psychiatrists (CADP)参加（任意）
3月	研修プログラム評価報告書の作成 日本統合失調症学会参加（任意）

⑰ もみじヶ丘病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	本院主催精神病理懇話会、日本精神神経学会総会参加
7月	近畿精神神経学会参加（任意）
8月	
9月	
10月	
11月	本院主催精神病理懇話会参加
12月	
1月	
2月	近畿精神神経学会参加（任意）
3月	

⑱ 嶺南こころの病院

4月	オリエンテーション SR1 研修開始 SR2/3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	日本生物学的精神医学会参加（任意） 日本児童青年精神医学会総会参加（任意）
10月	日本臨床精神神経薬理学会参加（任意）
11月	日本総合病院精神医学会参加（任意）
12月	研修プログラム管理委員会開催

1月	
2月	日本不安症学会参加（任意）
3月	SR1/2/3 研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成

⑱ 花ノ木医療福祉センター

4月	オリエンテーション 心理テスト、評価尺度などについての概要説明 子どもの観察評価についての概要説明 自閉症評価についての概要説明
5月	自閉症スペクトラム基礎学習会参加（院内・5～9月、全6回） 高機能自閉症スペクトラム学習会参加（院内・5～7月、全6回）
6月	日本精神神経学会学術総会参加 ペアレントトレーニング講習会参加（院内・6～8月、全8回）
7月	療育研修会（院内）
8月	
9月	
10月	日本児童青年精神医学会参加（任意） 療育研修会（院内）
11月	サポートブック勉強会（障害特性理解教育）参加（院内・11～12月、全5回）
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	療育研修会（院内）
2月	地域学習会参加（院内）
3月	研修プログラム評価報告書の作成